

『自動運転自動車の市街地における実証実験見学会』を開催

～金沢大学自動運転ユニットリーダー 菅沼准教授のSCOPE研究課題～

総務省北陸総合通信局（局長 吉武 久）は、平成28年9月15日（木）珠洲市民交流センターにおいて、北陸情報通信協議会イノベーション部会（部会長 丹 康雄 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 教授）とともに、金沢大学新学術創成研究機構自動運転ユニットリーダー 准教授 菅沼 直樹氏が昨年2月に全国で初めて開始した、市街地での自動運転自動車の実証実験の見学会を開催しました。当日は北陸経済連合会も同時に見学されており、総勢38名の見学会となりました。



【菅沼准教授からの概要説明】

見学会では、先ず菅沼准教授から、近年における自動運転の歴史や、実験車両が高精度なカメラやミリ波レーダーなど数々のセンサーを搭載し、高度な運転知能を持って自立的に走行できること、現在は珠洲市の協力を得て全長約60kmという国内では類例のない規模で公道による走行実験を行っているという説明がありました。

その後、参加者が3人ずつ分乗し、自動運転自動車の市街地での走行を体験しました。試乗を終えた参加者からは、「本当にハンドルに手を添えているだけなのか、何度も確認したくらいその完成度に驚いた!」、「ゆっくりした走行を予想していたが、しっかり周りの交通状況に適応したキビキビとした走り!」といった驚きの感想を持たれた参加者ばかりでした。



【参加者が自動運転自動車で試乗】



最後に菅沼准教授から、現在は完全自動運転への到達度は8割程度だが、朝夕の逆光時の信号識別、北陸ゆえの降雪時における状況把握、突発的なシーンにおける人間と同等かそれ以上の適正かつ瞬時の判断など、残り2割の問題点をクリアすることが今後の課題とのコメントがありました。

当日は新聞4社とテレビ4社の取材も受けるなど、マスコミの注目も高く、また、泉谷珠洲市長から、地域振興への活用や来年9月に開催される「奥能登国際芸術祭」の移動手段としても期待しているとの話もあり、大変有意義な見学会となりました。

この実証実験は、総務省のICT分野の研究開発における競争的資金SCOPEを活用して行われているもので、北陸総合通信局が平成27年度から研究開発を委託しています。珠洲市のような高齢過疎地域において、自動運転自動車を地域交通の一部として活用して安全で快適な移動を可能にするなど、次世代モビリティに大きく寄与することが期待されています。

お問い合わせ先：情報通信部電気通信事業課 076-233-4420